

兵庫県建築士会女性部会10周年記念イベント

とおく-TALK

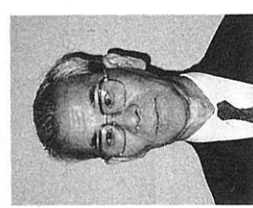
女性建築士は今!

社団法人 兵庫県建築士会

十周年をたたえ て 新たなステップへ

兵庫県建築士会会長
黒田 公三

女性部会長
武野 朋子



目次

記念式典次第
 挨拶 (社) 兵庫県建築士会 会長 黒田 公三 1
 女性部会長 武野 朋子
 とおく第1分科会 記録.....2
 とおく第2分科会 記録.....5
 とおく第3分科会 記録.....8
 アンケートのまとめ.....11
 女性部会の10年 (写真)18
 女性部会10年のあゆみ.....19
 住まいの研究会の10年.....22
 歴代役員と会員数.....27
 女性部会規約 編集後記.....28

「十年ひと昔」と言いますが、この十年間にきっと色々なことがあったと思います。その積み上げが、今となっては女性部会の歴史そのものと言えるでしょう。

30余名の会員から出発した女性部会も、90名を数える日を間近にしております。この10年間あたたかいご指導ご支援を賜り本当に有り難うございました。

例のないことで、始めは些か案じていましたが、十年の間しっかり歩んでこられたのは大したことだと思えます。皆さんの努力に対して敬意を感じます。

女性部会の十周年に、心よりおめでとを申しあげます。

女性の社会進出にともない私達の仕事に対する意識も、「家事・育児の合間の仕事」から「仕事の合間の家事・育児」に移行しつつあるようです。現実には、仕事も家事も育児も手の抜けない労力のかかるもので、決して合間にできるようなものではないのですが、「仕事」をする時間をつくるために「家事・育児」の新しいスタイルを見つけて出したという事なのでしょいか.....。

私達が関わる都市や建築は、人間の「環境」そのものであります。私達建築士の役割は、単に「物づくり」だけではすまない時代にきているのだと思えます。幅広く私達の生活のあり様全般について問いかけていくことが必要だと思えます。女性にしか鋭く捉えることの出来ない分野があるのだと思っています。女性部会に期待するところ大であります。ますますの御活躍を願っております。

各人各様のライフスタイルを創り出している人たちにとって柔軟に対応できる女性部会であり続けたいと同時に、いつも新鮮な情報の発信地でありたいと願っております。

とおく-TALK 女性建築士は今！ 記念式典次第

兵庫県建築士会女性部会10周年記念イベント

日時 平成5年4月10日 (土)
場所 兵庫県民会館

受付 (13:45~)	10階 エレベーターホール	902号室 (9階)
TALK分科会 (14:00~16:00)	第1分科会「素敵に生きるための仕事」 第2分科会「高齢化社会とすまい」 第3分科会「環境問題に関わる建築士」	福の間 (10階)
TALK全体会 (16:10~16:30)	挨拶 兵庫県建築士会 女性部会長 分科会報告 第1分科会 第2分科会 第3分科会	901号室 (9階)
記念式典 (16:40~17:00)	挨拶 兵庫県建築士会 女性部会長 挨拶 兵庫県建築士会 会長 祝辞 近畿女性建築士連絡協議会代表幹事 (代読) 京都府建築士会女性部会 副部長 祝電 和歌山県建築士会 会長 祝電 京都府建築士会 女性部会長	武野 朋子 内藤 玲子 垂水 百合子 鈴木 洋子 鍵野 洋子 武野 朋子 黒田 公三 野間 光輪子 吉田 比呂子 辻本 豊 野間 光輪子
祝賀会 (17:00~18:00)	10年のあゆみ 花束贈呈 祝辞 近畿建築士会協議会 会長 乾杯 兵庫県建築士会 副会長 祝辞 兵庫県建築士会 元副会長 祝辞 兵庫県建築士会 元会長 祝辞 和歌山県建築士会女性部会長 祝辞 兵庫県建築士会 前会長 思い出 兵庫県建築士会 元女性部会長 挨拶	小西 岬 谷 弘之助 山本 潤吾 長谷川哲之助 中小路多加子 荒天 義久 中川 俱子 野崎 瑠美

第1分科会記録

司会 内藤 玲子
記録 岡部佐田理
 武野 朋子
 正木 恵子

【はじめに】

女性部会長から仕事をすすめる女性という共通の地盤で当会を通じて何か仕事や生活に還元できたらと思うという主旨の挨拶から会がはじめられた。「素敵に生きる」とは非常に主観的な言葉で百人百様だが、各人の仕事を中心にした生活史を述べていたただく中で参考になるものが何かあればということと、さらに当会を選択した理由もあわせて、座席の順番に発言をお願いした。

【構成メンバー】

構成メンバーは次の通りである。主婦からコーディネーターへ現在は建築士、農地の有効利用で賃貸マンションの設計から経営まで手探りで進行中、デザイン事務所勤務3年目、一時結婚退職で以後は自営構造事務所、事務所勤務から結婚退職で自営設計事務所やインテリアスクール講師、建材メーカー後に設計事務所勤務6年目、都市計画、今は無職、設計事務所2年目、施工図専門に10年、今は自営構造事務所、短大非常勤、司会を含み計12人である。ひとり一人の生活史を述べるのに、関連して質疑応答が飛び交い、最後まで回るのに約1時間も要した。

【仕事の環境】

仕事の主な環境は次の通りである。女性の感性は特有のものではなく、場合によっては性差の言葉だ。女性のキャリアが一般化していない時代は各人が職場環境にあった特殊解決策があったが、現在は良くも悪くも女性も百業ひとからげの見方をし、即戦力化で、かつ整備された体制下では女性が活動しにくくなってきた。まだ女性が現場に出るのに抵抗

ると言う人間関係を作っていくことですね。今、メーカーさんも情報を提供して行かないといけないということが、よく分かっちゃるので、聞くんだから教えてあげると言う形は持っているんですね。ですからそういうところから、利用するというか聞きます。それと現場では職人さん、職人さんはいろんな現場にいて、いろんな物件を扱っていますので、そういう所からどんどん聞きます。新しいものが出ると、資料が全部自分の廻りになると不安です。あとは、動ける範囲でいろんな展示会、メーカーさんや業者さんにいただいたものは、必ず見に行くようにしています。そこから又、雑誌でみるより現物で見触れた方がいいので、大阪へも出かけるし、その方が次に仕事で使うときに選び易いし、お客さんにも提案しやすいです。とにかくどんどん、動けるだけ動きます。

■ あらゆる所にアンテナを張り巡らせて動くことが、不便なことを改革するか、新しい分野に着眼するか、アイデア的な要素に結び付くときが有るように思っています。それに対して、自分一人で出るときはやるんですけど、出来ない場合には、資金が要する場合はメーカーさんとお話をしなくてはいけませんし。そういったことを多分に交渉することから出て来る女性特有の観点とか、そういうのも建築にしろ、他の分野にしろいっぱい転がっていると思うんです。とにかく、出てゆくとか、人から教えてもらおうとか、腰を低くするとか、頭を下げるとか、女性は無理なく出来るって言うんですか、自然に出来るって言うんですか、得なところはありますよね。

■ ある時期からか、開き直りでしょうか、もういいんだと、自分はこの建築の中のこの部分をやりたいたいんだから、これをやるために必要な情報が情報であって、その場にもって沢山の情報があつたとしても今自分にとつて必要な情報で無いものはいいんだと、選択

をしてしまうような形ですね。効率よく集めるとか、自分はこここの分野を知りたいんだ、だからどこに行けばいいんだってというのは、あの人に聞けば分かります、こっちの場合はこっちかな、というような選択はしていますから、人脈というのは大事ですよ。友達といるんですか、そういうのは大事にしてますけど。

■ 自分が今必要なものは、情報であり、必要でないものは情報でないよ。」
■ 文字化されてないような情報というのが欲しいでしょ、実際に自分が仕事する場合、それは結局例えばある工法を実際にやられた方とか、そういう方からお話を聞かないと生きた情報にはならないですね。そういう時に、この分野だったらこの人に聞けばいい、という人脈を自分がいかにつくることができるとかと言う感じしますよね。

■ この調査結果から、既婚になると、やはり家事労働にも時間を費やして生活時間が狭くなって来ているなということを感じる。それが即ち情報が入りにくくなって、実際そういう面も有ると思うんですけどね。そういうのがここにも明確に出てくる。だから先程おっしゃったように、この情報はいらんと、有る程度開き直って要る情報だけを取って来る。情報というものは時間とお金のいるものだと私は思っているんですけどね。最終的には、時間が要らないものは、お金がいるし。お金をかからないようにするには、時間がある。

■ 自営をしますと特に女性の場合、ちゃんと看板をかけられればいいんですけど、そうじゃなくて自分でなさっている方って、今まで勤めているときは平気でメーカーに話して来てもらっていたのだが、えーとか言っているから出かけていかなければいけないと2倍も3倍も時間がかかって、それも、限られたメーカーのものしか、自分の中に社名がインプットされているものしか情報が入ってこないと言うか、こういう情報がほしいというきかけになる情報しか入ってこないんですね。勤めている時にはの波のようにバア-



のある職場もある事を知り、一部で驚きとなった。当会へ参加した理由の主流は主旨に賛同すると同時に単身者は仕事、家事、育児の生体験談にも興味があったようだ。

【情報】

次に話を変えて、アンケート調査で仕事の上の障害は「情報不足」に答えが集中していたので、「情報」について話し合った。発言は、核となる箇所はほぼそのまま再現し書き次の通りである。

* * * * *
■ 建築をやっている友達と話してて、建築に関するどんなことでも話する中で建築に関係あつたらどんな事でも聞いて損は無いなと思うんですけど。

■ 出来上がった物についての情報と云うのはマスコミが沢山報道してくれていると思うんですけど、それを作る上でどう言う風に人が動いたとか、どうやって設計した人がこれを作ったとか、設計する人は一人じゃないんですね。意匠もあるし、設備もあるし、構造もあるし、その時にどうやって関わりあつたかというの人は直接その人に聞かないと分からないので、人は直接会って人脈を作って聞けるのが一番いいと思います。

■ そうですね。作った人の意見だけを載せている特集なんかもありますけど、直接声が聞けるということで、出来上がった物よりも作った人の声が聞きたいと思います。それが情報だと思います。

■ だからささき言われたように人脈ですね。ほんとに、何でも聞けて何でも教えてもらえ

うのは、ばさっとあれだけ切り捨てているの
に安心して進んでいるんですね。

【仕事と家事】

次に仕事と家事の考え方を討議した。家事は気分転換で、家事と仕事の時間配分は自分の好みで。子供が好きだし家事は家庭の重要な部分なので仕事にのめり込むことができなかつたが子供の成長とともに自宅改造をきっかけに才能を見極めたい。子持ち以後は残業もそこそこの生活。保育所からの二重保育者探いで難航し全日操業を放棄。等の子持ちで仕事を続けるしんどさ。家事を女性に押しつけるのはおかしい。家事は男性も参加すべきやはり共働きには親、夫の援護者が必要な話等々が出て、単身者は単純には子育てはできにくいと感じたように思われた。だが、8人家族で家事も仕事も必死でこなす仕事が多忙な時は家事に思いを馳せながら、また逆にというように共に不足感をばねにして家事、仕事とも充実させたい。専業主婦を将来は志向しているが別の道に建築を据えて弱者の住宅づくりを目標としたい。多様な生き方展開に単身者の「家事と両立させた仕事の仕方を見つけない」の言葉が最後に出てきた。

会の進行につれて参加者の発言や質問が増加し、時間不足を感じる分科会だった。

《参加者》12名 岡部佐由理(兵庫)、荻谷君代(兵庫)、衣笠智子(兵庫)、栗林郁子(兵庫)、武野朋子(兵庫)、内藤玲子(兵庫)、西田多美子(大阪)、服部登貴子(滋賀)、藤本久代(兵庫)、正木恵子(兵庫)、溝田有子(兵庫)、渡辺由美子(兵庫)



とやってきましたから、自分で見過ごしている情報っていうのもどんどん入って来るわけですね。だから、自分が動かかれないため情報が入ってこないんじゃないかっていう恐怖感とコンプレックスがあると思うんです。

■ それと、知らないっていうことを、ある程度の経験ができた35才を過ぎてから平気で言えるようになったんです。それは、ある意味ではある程度自分は知ったから、平気で恥ずかしいと思わずに聞けるようになって、いつ頃からか山をこえたような気がするんですね。そうしたら世の中の情報っていうのが分別されて入ってくるっていうかそんな気がします。

■ やむを得ず退職をしてブランクがあつて再開された方っていうのは、私以上に恐怖感があるから、それこそ建築士会とかにそういうのを求めるんじゃないかと思うんです。

■ 去年UIFAって、国際的な女性建築家の集まりがデンマークであつて、参加された方の話なんです。その中で、ひとつ情報のことで、男性の頭の中っていうのはトナメントシステムになっていて、情報っていうのがこういふふうに入っている。トナメントに入っているんです。それに對して女性の頭の中っていうのは、クロスシステムでこんなふうに入っている。クロスシステムでクロスになっているのも黒板に図を書いて説明) クロスになっている一つの角でどっち行か選択するらしくつて、男性はその場で一つ大きな選択をして、その他の全部を捨ててしまうというそれだけの決心をして、もうこれについては戻さないというやり方なんです。それに対して女性の場合は、何かまだこっちにも戻れるというふうな要素をもちながら選択をしていくので、情報量の少ない人ほど安易に選択をして、ストレスがたまるといふか。ここまで選択をしていくにもかわらなく、この事に誰かが情報をいれると振り出しに平気で戻ってしまうという、それが医学的に見ても証明されていて、なるほどなと思つた。

■ 常に不安感を抱いているっていう感じしますよね。女性の場合ね。男性の場合って

とく-TALK

第2分科会記録

司会 垂水百合子 木本和子
記録 田中康代 鍵野洋子

■ 司会 高齢化社会を迎えるに当たって我々建築技術者が考えていかなければならない問題を、この分科会を取り上げます。

まずテーマ発言を行い、次にアンケート調査結果の説明、そのあとアンケート回答で多い項目順に会を進めます。

■ テーマ発言

鍵野

現在日本は、医療、保健衛生、栄養状態がよくなり、平均寿命が延びました。病気が病院で治療され治りますが、病気をきっかけとして体力は低下し、場合によっては障害が残つたまま自宅に帰り、どのように暮らすかという問題が生じる。日本は湿度が多いため、床を45cm以上あげるように法で決めている、玄関などにも大きな段差ができる。板の間と畳の間にも小さな段差がある。2階建、3階建では階段を上らなければならない、5階建ではエレベーターがない場合もあります。現在の住宅では、他に、狭い廊下を車いすで曲がれるか、狭くて段差のあるトイレや風呂に入れるか、介助者がいなくても風呂に入れるかなどの問題があります。高齢化社会とは、若い人に比べて高齢者が多い時代ですから、社会の介護力が低下します。公的なヘルパーを増やして欲しいと思つても、十分な働き手は確保できない。それでは住宅を改造して、と考へても結構なお金が必要。住宅だけでなく、あらゆる建築、街づくりも含めて新しく造る場合には、高齢者や障害者がある程度までは生活して行けるようなものを造る、これは私たちの責務であると思つています。建築的には、段差と幅や広さが問題です。高齢化社会の建築について本日考えていただきます、今後生かしていただきたいと思つています。



■ アンケート結果報告

木本

最も関心のあるテーマは住宅問題で、次いでまちづくり、施設、地域の支援でした。住宅の質では高齢化対応がなかなか行き渡っていない、自立のための配慮がない、補助や助成が必要等多くの意見がありました。まちづくりでは、弱者配慮のまちづくりが足りない、老人ホームが不便な所にあるなどです。地域の支援については、色々あるようだが必要の人に届いていないという指摘がありました。施設については圧倒的に数が不足している。特に中間所得層、独居用が必要とすることが多いです。歳を取ったときには、親とは同居、子供とは別居という答えが多かったです。一人暮らしで自分の事が出来なくなると施設に入るが圧倒的でした。一人暮らしの住居の形式は、集住で規模はワンルーム、便利で設備が充実しているのがよいという結果が出ました。若い人はプライバシーを、高齢者は人間関係を求めているのが対照的でした。

■ 司会 住宅で困ったとか改造した事例を...

■ 田中 一般に、自分が困難にぶつかって初めて改造や改良を考え、その場その場に対応しているのが現状だと思います。住む人の住まい方を一番基本に考えて、寝たきりにさせない工夫、便所の手摺の代わりに天井からロープを下げてそれにつかまるといった工夫があつてもいい。何が一番適切かということを身体機能の弱り方や性別をふまえて考えていく必要があります。改造も高齢者がそれに適応できるかどうかも気になります。

■ 山田 最近家を建てかえました。おばあさ

んは、ガス器具やシステムキッチンになれるまでが大変です。便所は老人室の近くで洋式にしたので老夫婦共、楽になったと喜んでいきます。和室と廊下の段差はありますが、玄関框は低くし、お風呂にも手すりをつけました。間取りでは親にも相談しましたが、もっぱら私達が中心で、親が年をとっていることをぬかしていったと、今反省しています。

■服部 ハウスメーカーのコーディネーターです。モジュールが910のため階段や廊下の手摺りをつけると建基法違反になる、また、1間半の階段が急勾配で危険なのも問題です。一般にそのような住宅がまだまだ多いですが、その辺をもう少し改良してほしいです。都心部では土地が狭いので、3階建て住宅も多くなくなっていきますが、お年寄りの部屋は階段がネックでやはり1階になり、一番住み心地の悪い所になっているのが気になります。ホームエレベーターがつけられるといいのですが、せめて階段幅を広くして階段昇降機などが一般的になり、上階の居住性のいい所に住めるようになってきたらいいのと思っています。

■高橋 奈良も高齢化住宅について勉強会してきました。お年寄りの部屋は和室がいいと思っていますが、先日施設を見学して感じたことは、体が弱ってくと立ったり座ったりの動作がしにくいので、必ずしも和室が適していないということです。和室は情緒的には必要ですが、今後は敷居、段差をなくしていつでもベッドの置ける洋室に変えられる和室を考える必要があると思います。

また、3階建ての二世帯住宅で、初めはおばあちゃんの部屋は1階、他の家族は2階3階だったのが、1階に1人では寂しいと途中で設計変更して2階にもって来た経験があります。老人室をどこへもっていかかというの
■山田 住宅を建てたあと何年かしてから、両親は和室にベッドを2つ並べています。それなら最初から洋室にしておけばと思います。た。ベッドの方が動作が楽なようです。

■鍵野 元気でいる間の方が人生としては長

く、ベッドが楽な期間は比較的短い。和室がいいという人は多いので、和室をつくることは間違いではないと思います。和室と洋室に段差をつけなくていい、ベッドが必要になったら、畳はカーペットのようなものど解釈して、ベッド、イス式の暮らし方をしてもいいと思います。

■西尾 市街化調整区域で下水道が完備していなく、水路が田んぼに流れるため汚水を流せない地域です。去年亡くなったおばあさんは痴呆でした。和室にベッドを入れましたが、畳の上での汚物処理では、掃除、匂い消しなど非常に苦労しました。便所へ行くのも一度土間へ下りてからという日本の田舎の住宅のつくりは、高齢者には厳しいと思います。

■司会 集合住宅の問題点について...

■有賀 公的な利子補給を受けて、民間の賃貸住宅の建設をする会社に勤めています。大阪府下では、融資制度で段差や手摺りなどの条件がつけられ、その条件が年々厳しくなるごとに、融資を受ける住宅の質が確実によくなります。賃貸経営や分譲事業を民間でやる場合、どうしても採算が問題でコストのかかることはやらないが、公的融資制度で制約があると、施工会社でもそれに対応し、かつコストを下げる方法を考えます。やはり公的規制があるのとくりみやすいと思います。

また、共同住宅に年寄りを入居させない動きが世間にあります。一人暮らしでも安心して住める地域、人間関係をこれから考えていかなければならないと思います。

■田原 兵庫県では高齢化社会に向けて、福祉のまちづくり条例を制定しました。道路、公園、駅舎などが通る所すべてが対象になっており、完成すると西欧並みになります。

住宅融資制度では、高齢者仕様の住宅を建設、購入する人に低利で1,000万円まで融資しています。建売りの場合は、設計段階で審査して認定していく制度で、住宅が完成すると認定書を出し、売買の時に県の高齢者向け住宅融資が受けられます。今まで300戸近く認

定していますが、西明石の住宅展示場にできた高齢者住宅が認定第1号です。新設の県営住宅では、浴槽の埋め込み、階段、便所、浴室の手摺、5階建てのエレベーターの設置など高齢者仕様にしている方針です。今、加古川でケア付住宅208戸を建設中で、モデルルームを見ていただきたい。10月には体験できる住宅フェアを開催する予定です。

■司会 まちづくりについては...

■竹川 山陽電車の姫路駅で車椅子を降ろすお手伝いをしたが4人でもとても重かった。姫路駅にはエレベーターが無く、長い階段では本人も手伝う方も大変だと思いました。

■能登 田舎に住んでいます。道路が狭い上に歩道が無く、人や自転車を通るには非常に危ない。安心して歩けないので自分も車を利用してしまふ。もう少し歩道をとって、ゆとりた道にしてほしいと思います。

■司会 施設の配置計画について...

■* 母が交通事故で近くの病院に入院して、けがは治ったが動けなくなった。長期入院可能な病院は不便な所で、勤めの休日しか会いに行けなかった。便利な所に老人病院を作るようにしてほしいと思います。

■司会 あなたが齢を取ったときどこでどのように住みたいですか...

■長谷川 高齢者とは何を求めているのか。建築で対象とするのはどの程度の人なのか。

■鍵野 法的には65歳から。元気なとき、少し弱ったとき、自分の事が出来なくなるときの3段階位に分けて考えますが、65歳以上では元気で何らかの配慮が必要です。

■長谷川 義母がライオン市に入っている。最初はハイソサイエティだったが時がたつにつれ痴呆の人が出て来た。元気なひとから苦情がでて、別棟を建てて分けられた。当初は介護もしてくれなかったが最近介護士を介して面倒をみてくれるようになった。

■司会 建築士のすべきことについて...

■小西 3年前に北欧に行き、ストックホルムのサービスハウスとコペンハーゲンのナーシングホーム（日本の特別養護老人ホーム）を訪問した。施設は5階建て一般住区内にあり、66人が住んでいる。平均年齢80歳で、市の職員が世話をしている。繁華街から5~6分の所にあり面会に行きやすい。日本も身近な地域でうまく住めたらと思います。

■浅野 私のすんでいる所は田舎で同居が当然という地域ですが、最近若人が減り老人だけの家が増えている。老人と若い人が地域社会の中で協力して行けたらと思います。

■有田 85歳の障害者の父を含めて5人家族ですが、昨年、330㎡の二階建ての家を建て、手摺りやエレベーターも付けたが、税制面のメリットが全然無かった。田舎では220㎡ぐらいの広さは必要なので、税制面で面積の考慮をしてほしいと思います。

■桑原 アンケートは女性ならではの集計の仕方、細かい心くばりを感じました。私自身、老後は子供に愛されるをモットーにしています。今日、多くの意見を聞いて、我々建築士が色々な状況に対応出来る住まいづくりを考えて行かなければならないと思います。

■司会 どうもありがとうございました。

《参加者》26名 浅野悦子(兵庫)、阿部保代(兵庫)、有賀芳子(兵庫)、有田周子(兵庫)、一ノ瀬弘子(兵庫)、岩井一枝(兵庫)、鍵野洋子(兵庫)、木本和子(兵庫)、桑原隆夫(兵庫)、小西文(兵庫)、白形知代(兵庫)、高橋たけ子(奈良)、竹川正子(兵庫)、竹田明美(兵庫)、田中康代(兵庫)、田原正義(兵庫)、垂水百合子(兵庫)、西尾弘江(奈良)、西嶋宣久(兵庫)、能登貞美(兵庫)、長谷川哲之助(兵庫)、服部康子(兵庫)、久枝真弓(兵庫)、福原美登里(兵庫)、山際洋子(兵庫)、山田奈代美(兵庫)

第3分科会記録

司会 芝崎康子
記録 鈴木洋子
野崎瑠美

【環境について思うこと】

■芝崎 アンケートの結果によると、人によって環境問題の捉え方が様々です。自己紹介を兼ねて、あなたの環境問題をどうぞ。私は個人事務所です。以前いた事務所、住宅供給会社の開発による団地の設計をしていましたが、共有地の緑が少ない経済効率を優先させ、設計方針に疑問を持ちました。日本は昔から、森を取り入れた生活の場を持っていただけで、もっと緑の環境作りを考えて欲しいと思います。今は、住まいの研究会等で環境問題とパッシブソーラーに取り組みます。

■鈴木 コープこうべ生活福祉部で、環境問題から生活を考える仕事をしています。主婦を対象の実態調査では、全体的にエコロジーに非常に関心が高まっています。

■岩波 設計事務所をしています。私達の生活は便利さを追求しますが、結果として環境が多量に思われます。実務の面では、どうしてもコストを優先してしまいがちなので本当に必要な物を考えるべきだと思います。

■前田 今の建築は、エコロジーと反することが多い。ユーザーの希望で気になる事も飲まざるを得ない状況です。環境問題はこれからの課題と思っています。私個人は、人が捨てる材料で山小屋作りを試みたりしますが、外部への影響力は余り無いと思っています。

■中小路 主婦としては意識しても、仕事では余り考えた事がなく、この分科会をきっかけに考えていきたいと思っています。

■人見 造園計画の事務所、役所の下請けが多いのですが、河川の計画等で初めは自然を残す案を出しますが、残念な事に、最終にはコンクリートの河川になります。建築も屋上庭園、アトリウム等で緑の多い計画を取り



入れて欲しいと思います。現在、環境設計という観点から自宅の屋上で、人工土壌の比較実験をし、根の状態や、水やりの影響を調べています。良い結果が出たら報告します。

■野崎 最初にいた設計事務所の姿勢は、基本的にその土地の風土に合った建築、自然と一体化した建築を目指して、地場産業の材料を使ったり、省エネの設計することがごく自然の事でしたので、特に環境問題も意識せずに設計をしていました。これからはもっと積極的に考えるべきだと思います。

■西村 西宮で仕事をしています。最近、西宮市役所への陳情では、眺望権のような自分の環境に関わる問題が多く取り上げられています。それだけ地域の環境に関心が高く、守っていく姿勢が強くなっていると思います。

■佐川 特に最近感じるのは、事務所に来る紙の量の多さです。毎日10通以上のダイレクトメールが送られてきて、結局捨ててしまうものが多く、無駄です。ゴミ問題として企業にも考えて欲しいと痛切に思います。

■谷 環境問題は非常にテーマが多く、角度も広い。本職がゼネコンですので、材料問題から考えたいと思います。先日も県の都市住宅、土木部と建設協会との環境問題に付いての協議で、環境を破壊する材料、特に仮設資材のコンパネ等を使わないで欲しいという要望がありました。それにはまずメーカーは環境を破壊するような材料を作らないで欲しいと思います。又、資材の再利用も実行していますが、材料について仕様書に書くことが大事だと思います。

■水谷 最近、淡路のモンキーセンターの猿

に奇形が多いのに驚かされました。飼料として輸入穀物を与えているそうですが、農薬の恐ろしさを感じました。車の排気ガスがオゾン層の破壊をしていると分かっているにも、仕事の関係や生活の便利さからも、車無しの生活は出来ない。又、熱帯雨林の破壊は、地球の緑の量からすればすさまじいと思うので、南洋材を使わないようにすること、熱帯雨林の保護にお金を使わなければならないと思います。

【材料（木材）問題について】

■芝崎 2×4の材料では合板は南洋材が多く使われています。北米産の針葉樹合板では、農林規格でOKでも工業規格では通らないものもあります。又、公庫の仕様書で、材料の使い方を規定しているもので、行政側からの見直しもして欲しいと思います。

■谷 兵庫県では、県産木材を50%以上使えば500万円の補助が出ます。これは間伐材の問題があるからです。見え隠れ材を県産木材にするという仕様書を書いて使っていますが、個人の場合、見える所に良い材料を使わないと文句が出るので難しいです。

■谷 この冬、北山杉が大きな被害を受けていますが、それも職人さんが不足しているからです。環境を守るには手間がかかります。

■芝崎 兵庫県では植林による山は70%にもなりません、それは商業ベースにのる松や杉ばかり植えるからですが、人手不足の為に手入れが不十分というのは理屈に合わない。

■野崎 間伐材を使うように仕様書に書いていますが、実際は流通に乗っていない為に入らなくて、ただの節付きの木になってしまいます。もっと要求が多くなれば解決するでしょうか？ 間伐材を利用する事は森にとっても、私達にとっても良い事なのでそこからどこかで穴を開けたいですね。

■谷 補助金制度を作ってコストをカットしてやらないと、消費者価格にマッチしないという問題もあります。

■前田 原木が入ってこない事で、合板が5割の植上りをしましたね。こういうシヨッ

クがあれば、間伐材のチップで合板を作るのではないのでしょうか。南洋材よりも針葉樹のチップの方が毛足が長いので強いと思います。また、百年の計で循環を考えなければと思います。昔の民家は百年もってその間に木も育つという良い循環がありました。

■水谷 古材を利用して建て替えたいというても、経済的には処分して新しい物にした方が良いと言われます。現実にはそういう問題にぶつかります。

■芝崎 古材の再利用をしたいのですが、個人の力では限りがありますので、数の力でそういう方向に動ければと思います。

■谷 縦割の行政から横に出た信号を送っていくべきだと思います。土会としても提案していきたいと思っています。

【環境問題と一般の意識のずれ】

■鈴木 一般にも意識の高い方が増えてきたようです。メーカー側とユーザー側のギャップについて、ユーザーや設計者は意見を言うべきだと感じています。又、再生された物を使わなければリサイクルの輪が完結しないという認識が一般の方にあります。これは兵庫県のリサイクルガイドブックですが、安全な廃棄物処理と再生材料の利用を促しています。再生材の情報をお持ちでしたら教えて下さい。発泡スチロールが土壌改良材に使われているようですがどのようなものなのでしょうか？

■谷 屋上庭園に使われているように、中小路 屋上庭園では根が張っても大丈夫でしょうか？

■人見 東京では何十年もやっていて躯体にはほとんど影響無いようです。業者は根が嫌うエキスを出すものやビニールを引いてみたりしていますが、しなくてもいいようです。京都ではアスファルト防水の上に直接土を置いて植栽する事に取り組んでいます。コストが安くなるし、屋上にすると冷暖房に大きな効果があるので、木にとって良い材料を研究しています。問題は排水口が詰まることですが、それ以外では影響はないようです。

建築士仲間に伝わっているかどうかが心配の無いように、前向きに情報公開に取り組みたいかなければならない。

■芝崎 鈴木 野崎 本日はどうも有難うございました。

【第3分科会のまとめ】

各々の自己紹介からも建築士として環境への関わり方に幅があるように思われます。日照、通風、自然風土に合ったものから廃棄物の処理、景観の分野、ソーラーの様な技術的なものまで、環境をどこかの視点にいれていかなければいけないと感じているようですが、具体的にはまだこれからの問題です。課題の一つとしては、環境にいい材料や手法に付いての情報を、より積極的に求め、交換していかなくてはならないということ。そのためには、我々建築士のネットワークを広げていく努力をする。もう一つは、建築士の存在を一般の人々にアピールしないと、せっかく考えても力にならない。建築士の力が数になると、一般への説得力も強くなるし、行政へも働きかけが出来るのではないかと。以上、建築士会としての役割を確認できたようです。

《参加者》11名 岩波陽子(滋賀)、佐川俊吉(兵庫)、芝崎康子(兵庫)、鈴木洋子(兵庫)、谷弘之助(兵庫)、中小路多加子(和歌山)、西村盛廣(兵庫)、野崎瑠美(兵庫)、人見草子(京都)、前田邦江(大阪)、水谷長清(兵庫)



■前田 外壁に蔦を使用したいのですが、根で外壁を荒すんでしょか？

■谷 甲子園球場は蔦で壁面は保護されているそうです。

■芝崎 木造で土壁の外壁に蔦が這っていきませんが影響はないようです。

■中小路 庭に竹を植えていたら、根が張ってきて床が上がったというのを聞きました。

■人見 竹の根は横に張って来るので、防ぎ方が難しいのです。

■芝崎 選ぶ時には木の特性の知識を持つことも大切なことだと思います。

【建築士の存在アピールと情報公開】

■鈴木 情報不足もありますが、一般の方から建築士に対する疑問があります。建築士の存在をどの程度知っているのでしょうか？

■野崎 一般的には関心がなくて、設計事務所への存在感も薄いし、家を建てる時には住宅メーカーの所へ行ってしまうのを聞くと、無力感を感じます。どうすれば建築士の存在を社会にアピールできるでしょうか？

■前田 大阪府女性委員会では勉強会やユウゼーセミナーをするのですが、そこで建築士の存在をアピールします。5分から10分、パフレットを渡して説明しますが、回数を重ねる事によって効果が表れるようです。

■岩波 今まで放っておいたから役割を理解されない。建築士会全体がアピールしていかないと社会的な地位も上がらないし、地域への貢献も分かってもらえないと思います。

■西村 秋には建築士の登録制度が出来るのでそういう時にアピールを兼ねて頂きたい。

■芝崎 建築士は社会的な責任もあるはずなので、組織だっって一般にアピールするようにな建築を作る必要があるように思います。

■谷 兵庫県住宅建築センターでは建築相談をしているのですが、今後の課題として建築士会がアピールをしていけばと思います。設計や請負トラブルも、建築士が介在しておれば訴訟のような問題にならなくて済みます。

■水谷 建築材料に付いてのいろいろな情報が、

女性部会10周年記念イベント(とおく-TALK)の資料として平成5年3月にアンケート調査を実施しました。一級建築士名簿(建設省監修)及び建築士実態調査名簿(日本建築士会連合会)により、約450通発送し有効回答

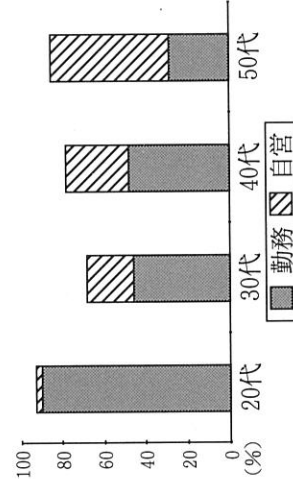
109通を得ることが出来ました。<一般事項>
 ・<第1分科会 素敵に生きるための仕事>
 ・<第2分科会 高齢化社会と住まい>
 ・<第3分科会 環境問題に関わる建築士>

【一般事項】

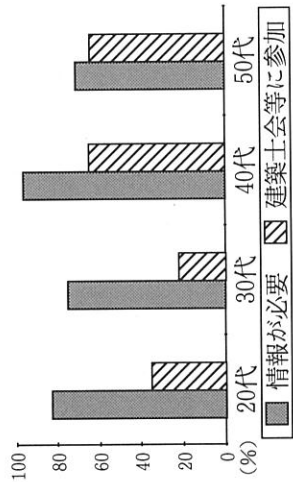
1. 年齢別家族構成

	子供の有無					世帯必要60才以上老人の有無					配偶者の有無			
	0人	1人	2人	3人	合計	0人	1人	2人	3人	合計	有	無	不明	合計
20代 (人)	38	2	0	0	40	31	7	1	1	40	10	29	1	40
30代 (人)	14	7	9	2	32	24	4	3	1	32	24	8	0	32
40代 (人)	4	6	8	5	23	13	7	3	0	23	19	4	0	23
50代 (人)	5	3	4	2	14	7	7	0	0	14	12	2	0	14
合計(人)	61	18	21	9	109	75	25	7	2	109	65	43	1	109

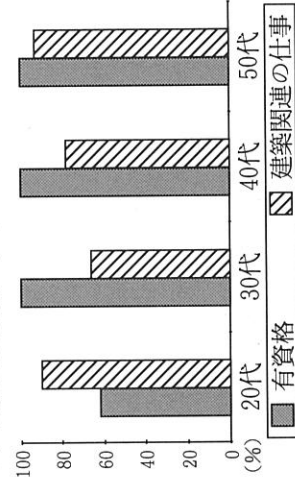
2. 仕事の形態



4. 情報と参加団体



3. 建築関連資格と仕事の内容



5. 知りたい情報

- ・他社で女性がどのように働いているのか
- ・女性建築士の共通の意見と悩み
- ・講習会、勉強会、懇談会等の情報
- ・仕事はしないが、自分の生涯学習として
- ・建築史、これからの建築等
- ・法関係、住宅実践例、地域別住宅情報

【第1分科会 素敵に生きるための仕事】

《仕事をしたい理由》

- 1 1位「精神的満足」 63.3%
- 2位「生活費を得る」 45.9%
- 3位「能力をたしかめる」 42.2%
- 4位「自分の資格を生かしたい」 39.1%
- 5位「自由に使えるお金」 35.8%

2 1位の「精神的満足」は全世代を通じてトップで、これは男性の場合と異なって大きい比率となっている。

3 男性の場合、当然のこととして出てくる「生活費を得る」の比率は20代であっても1位になっていない。

4 1位に続いて、2位、3位、4位と連動して上位を占めている。「自由に使えるお金」で「精神的満足」を得ることがまた、結果として「生活費を得る」になっていてそのために「能力」や「資格」を使いたいようだ。

5 だから、「友人が欲しい」「話題が欲しい」「時間が余っている」のような感覚で仕事をしたい比率は低い。

《仕事をすす上での問題点》

- 1 1位「情報量が少ない」 40.4%
- 2位「家事」 31.2%

- 3位「能力に合った仕事なし」 24.8%
- 4位「育児」 17.4%

2 1位に「情報量」が出てきたのは女性の就労環境の変化を示す面白い結果だろう。なぜなら、前回（1983年の調査）では「育児等の家族のため」が仕事の阻害要因全数の約32%を占めているが、今回は19%強に低下している。

女性が仕事を持つことに市民権を得て家事の荷が少し外されてきた反映だろう。だが、職場は男性社会で情報は人を介したり自分で時間を使ったりで、生活時間に余裕があって成立し、シングルの女性でも最小限の家事は必要である。だから、仕事推進上の問題点の内、「情報量が少ない」の答えの比率は既婚者43.1% 未婚者33.3%と出てきていて、既婚者の方が物理的に時間不足となり、情報不足感が強い。

3 未・既婚者を通じて、家事のための仕事の阻害要因率は28.4%で、未婚者だけでは13.8%もある。以前では、シングルで「事に支障」は出て来なかった数字である。家庭と仕事を共生させたライフスタイルが少数派だが、頭をもたげてきていて、地についた豊かさの一つの現れだろう。

《まとめ》

- 1 女性が勤めると家庭が手薄になるのはある程度、公認されてきたようだ。
- 2 だが、女性の場合、男性のように全く家庭から自由になることは不可能で、「情報不足」からもわかるように、時間的不利は覆い隠すことはできない。
- 3 キャリアとして生きるには「情報」は重要な位置にあり、職場、業界で真の男女の共生が模索されるよう望まれる。
- 4 シングルの家事への思いは明るい材料として大切にしていきたい。

表-2 望む仕事の仕方

	主に					合計
	フルタイム	パートタイム	出かけていって	家で仕事を主に	その他	
20代 (人)	24	2	11	7	3	47
(%)	47	17	46	25	20	0
30代 (人)	11	5	6	10	5	38
(%)	22	42	25	36	33	50
40代 (人)	10	4	3	8	5	30
(%)	20	33	13	29	33	0
50代 (人)	6	1	4	3	2	17
(%)	12	8	17	11	13	50
合計(人) (%)	51 100	12 100	24 100	28 100	15 100	2 100
						132

表-3 仕事をすす上での問題点 (重複解答)

	育児	家族の世話	家事	情報量が少ない	能力に合った仕事なし	対人関係	その他	不明	合計
(%)	11	14	24	50	44	65	41	0	0
30代 (人)	14	6	10	9	7	3	12	2	63
(%)	74	29	29	20	26	18	29	50	0
40代 (人)	3	7	11	8	7	2	7	0	45
(%)	16	33	32	18	26	12	17	0	0
50代 (人)	0	5	5	5	1	1	5	2	24
(%)	0	24	15	11	4	6	12	50	0
合計(人) (%)	19 100	21 100	34 100	44 100	27 100	17 100	41 100	4 100	207

表-1 仕事をしたい理由 (重複解答)

	生活費を得たい	自由に使えるお金	自分の資格を生かしたい	能力を試したい	友人が欲しい	話題が欲しい	時間が余っている	精神的満足	その他	不明	合計
(%)	44	41	21	48	40	100	0	35	27	0	0
30代 (人)	11	9	13	13	0	0	1	22	10	1	80
(%)	22	23	30	28	0	0	50	32	33	50	0
40代 (人)	12	9	11	8	2	0	0	17	10	0	69
(%)	24	23	26	17	40	0	0	25	33	0	0
50代 (人)	5	5	10	3	1	0	1	6	2	1	34
(%)	10	13	23	7	20	0	50	9	7	50	0
合計(人) (%)	50 100	39 100	43 100	46 100	5 100	1 100	2 100	69 100	30 100	2 100	287

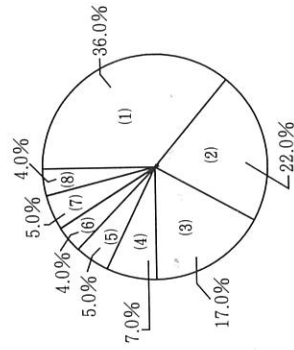
【第2分科会 高齢化社会と住まい】

■この分科会で取り上げたいテーマ
 (1) 住宅問題が最も多く、(2)まちづくり、(3)施設、(4)地域の支援、(5)その他の順序であった。

■上記各項目における問題点

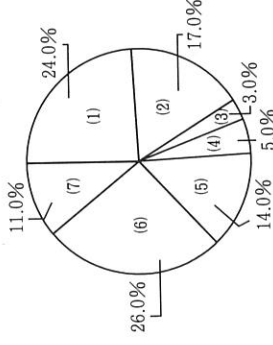
- 1 住宅問題
 - (1) 住宅の質が高齢者対応になっていない。設備が使いにくい。
中高層の階段が狭い。
良質の賃貸住宅が不足している。
建売住宅の低品質、画一的。
 - (2) 情報、学習、啓蒙については、ユーザーも勉強すべきである。
改造方法の情報が欲しい。
福祉機器の情報が欲しい。
 - (3) コストが高すぎる。
 - (4) 公的住宅、特にケア付が求められている。
 - (5) 一人暮らし住宅の研究や建設が少ない。
 - (6) 高齢者対応の建築の設計・施工についてノウハウが行き渡っていない。
住宅は営利対象にされてはならない。
 - (7) 暮らし方については、核家族が増加しお年寄りを看られない。
同居住宅のソフトが必要。
 - (8) 法規制の甘さ。
家族の介護が前提で自立の為の配慮がない。補助、助成、融資の必要。

☆多くの情報があるにも拘わらず一般への浸透が未だであるのがわかる。



2 まちづくり

- (1) 弱者配慮のまちづくりがなされていない。公共建築の整備が必要である。
- (2) 道路や交通に問題があり、車中心社会で歩道が整備されておらず、危険である。駐車場が少ない。
- (3) 高齢者施設の配置計画について、老人ホームが街の中心になく、訪問に不便。
- (4) 都市を計画する側の責任については、不勉強で整備指針が徹底していない。
- (5) 街に快適さや治安を要求。
緑を多く望んでいる。
- (6) 都市計画批判も多く、地域の特性が生かされていない。
要望無視。情報公開や市民参加を求める。
旧市街地が高齢者偏住になりがちだが、インナーシティを老若混住の街にする。
- (7) その他、公共用地取得を強化する。
協力工務店リスト。
人のネットワークなどの要望。



3 地域の支援

- (1) 支援や支援組織がいろいろあるが、行政と地域の協力が必要。
ボランティアに頼り過ぎ。
本当に必要な人に届かない。
- (2) 近所づきあいの為、住まいを開放的に。
- (3) 人の心や意識に関しては、孤立しない、させない。
- (4) 情報、啓蒙、開発が必要。
- (5) その他、地域の支援はまだ難しい。公的補助が必要。

☆この項目は記入された意見が少なく、意識が低いように思われた。

4 施設要求

- (1) 施設が不足している。
文化、生涯学習、集会所、コミュニケーション、寝たきり、在宅支援、デイケア、終身利用、独居用、中間所得者用、のそれぞれ施設が足りない。
(2) 施設の質や設備等の内容については、画一的、郷土性を大切にしたい。
安価又は無料を望む。
身近で利用しやすい物に。
収容者の人権配慮。
- (3) 施設の情報要求
- (4) 施設の配置計画については、都市の中心で交通便利な所に。
郡部にも必要。
- (5) その他、本当に手のかかる人は拒否する施設への批判。
施設への交通手段配慮。
永住の保証。
家族と分断せず、自宅介護のサポート的施設を望む。

5 その他

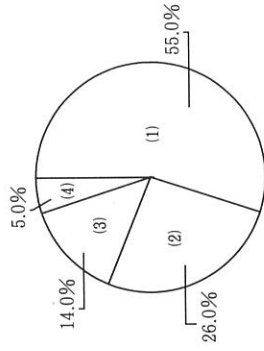
- (1) 生き方。
若い人と老人との対話。
社会とのつながりを持ち続ける生き方とは。
- (2) 建築士の質の向上。

■あなたが年を取った時どうするか。

- 1 同居か別居か
親とは同居、子供とは別居という意見が多かった。近居、隣居という選択もあった。
2 一人暮らしで家事や用便が一人で出来なくなったら、
(1) 施設に入る、が圧倒的に多い。
(2) 子供と同居。支援を得て自宅。介護機器で。
(3) 有料老人ホーム。
(4) 病院。リハビリ施設の近くで。

☆施設に入る、は子供に迷惑をかけたくないからやむを得ずと受け取れる。既存の施設

の生活環境の悪さをあらわしている。



3 一人暮らし住居はどんな形式がよいか。

A 住宅の形式

- (1) 高齢者向き集合住宅（ケア付き）
集合住宅、友人共同
- (2) 平屋連棟、タウンハウス
- (3) 平屋戸建て

B 規模

- (1) フォールームが良い。
- (2) 適切な規模。

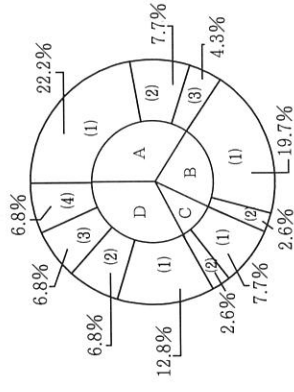
C 間取り

- (1) 外との交流がしやすい空間（縁側）
- (2) 収納が多い。
間取りをフレキシブルに変えられる。

D 内容

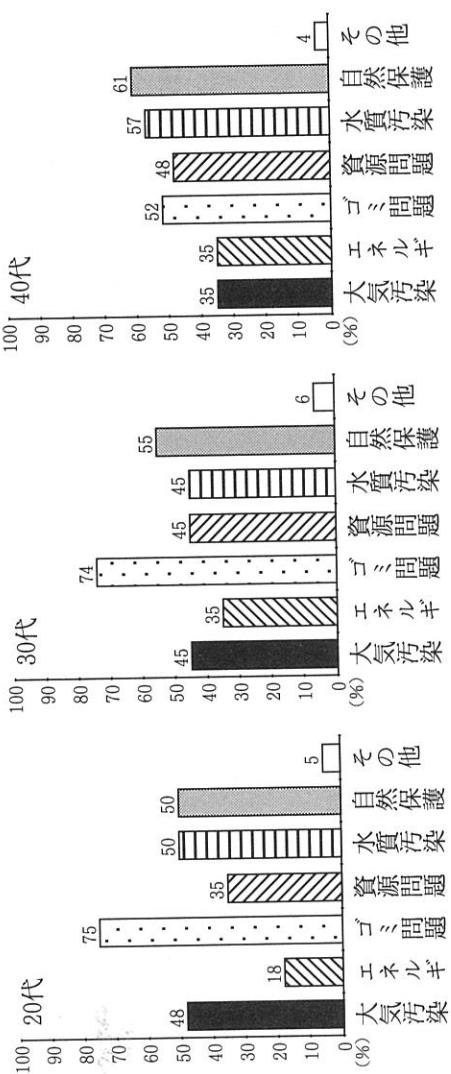
- (1) 設備が充実していて便利。
- (2) バリヤフリーで安全。
- (3) プライバシー。明るい。日当り。静か。
- (4) 自宅で支援付。自宅改造。病院、子供の近く。その他。

☆年代別の集計では、若い世代は、プライバシーや設備充実などのハード面の質を求め、年を取ると、集まって住むような人間関係を求めているのが特徴的である。



【第3分科会 環境問題に関わる建築士】

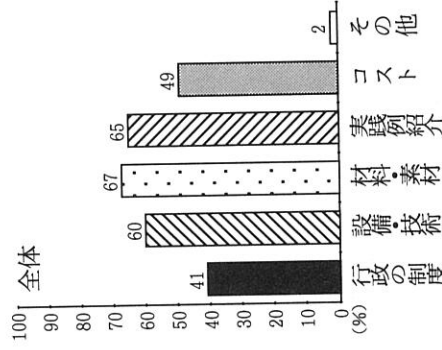
1. 関心のある環境問題



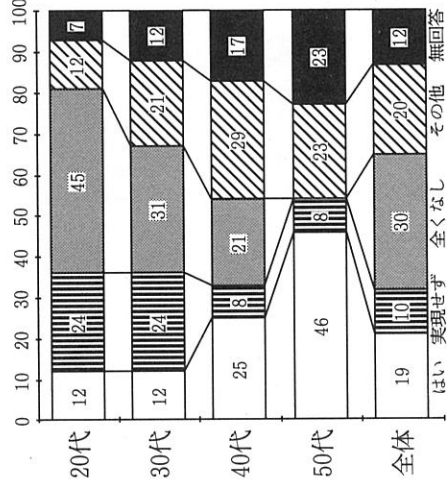
* 全体的にゴミ問題、自然保護への関心が高い。
 * 年代差が見られるのは、資源問題と、エネルギー問題。
 * 50代では資源問題への関心が他の分野に比べ際だって大きい。逆に、エネルギー多消費型の生活にどっぷりつかっていきそうな20代で、エネルギー問題に関心が低いのが気になる。
 * これらの環境問題への関心は「生活者」としてのものであり「技術者」としての立場で関心を持っていると言えるのであるだろうか？

2. 環境に配慮した建物をつくるために欲しい情報

* 材料・素材・設備・技術も含め、実践例の情報が望まれている。有効な情報交換のできる場があれば、ユーザーに対する説得力不足を補える力になるのではないか。



3. 環境問題を意識して仕事をしたか？



* 技術者として何等かのアクションを起こしたものは、年代が上がるにつれて増える。
 * ただし、具体的な内容を尋ねると、同じ行動でも「建築物を作る上での一般常識」にもなり、「環境に配慮した行動」にもなる。建築物を作る上で基本事項が環境配慮につながることを改めて見直すことも大切か。

* 業務が設計でないもので、関係ないと思えた人も多かったが、環境問題の幅が広がりに、設計業務の人だけの課題でないことを認識する必要があるのでは。

はい
 * 環境に良くない材料は使わない。(FRP、乳白のGB)
 * 自然素材の利用。
 * 集材材の利用。
 * なるべく素材のよさをいかす。
 * 会社の方針。施主の方針。決定権がない。
 * 廃業業者の選定。
 * 改築増築等で撤去する物もできるだけ計画し再利用する。
 * 解体後のガラを資源ごみとその他に分ける。

考えただけど実現しなかった
 * コストが高い。(予算、イニシャルコスト...など)
 * 説得力不足。知識不足。情報不足。設計時間不足。PR不足。
 * 施工業者が嫌がる。
 * 補助金がない。(植栽などの個人負担分)
 * 新しい試みができない。(仕事のパターン化)
 * そういうことに関係ない仕事。
 * 環境によりライフスタイルは実行しにくい。

その他
 * 今考えている。
 * 考えたことはあるが、実際に考慮してやっていたことはない。
 * 実務経験がない。まだ直面していない仕事がない。
 * 仕事が違う。店舗のため。
 * 考える機会がなかった。
 * 具体的には考えていないが、最低限のルールは守る。
 * 一般的に入手しやすい製品の使用。
 * 商品づくりへ提言した。